

一貫パレチゼーションの実現による標準化と共同化

JPR 日本パレットレンタル株式会社

2026/3/3

於:フィジカルインターネットセミナー in KANTO ~ともに考える持続可能な物流のあり方~

Confidential



本日本お伝えしたいこと

- 2024年問題を契機に、異業種間での物流リソースの連携・共同化といった取り組みが加速しており、レンタルパレットを用いた一貫パレチゼーションの需要も増えています。
- 一貫パレチゼーションの実現には、パレットの標準化と共同化が必要です。レンタル方式は空いているパレットを利用者が共同利用する仕組みであり、フィジカルインターネットの世界観との親和性が高い手段です。
- 「製品の輸送」と「レンタルパレットの輸送」をモーダルシフト・共同輸送化した事例があります。またレンタルパレットの導入によって、バラ荷役の解消、ワンウェイパレット運用からのコスト削減といった具体的な成果が出ている事例があります。



目次

1. 会社紹介
2. 平パレットの生産・レンタル平パレットの保有統計
3. 近年、生じている現場の課題
4. 2024年問題を契機とした変化
 - 4-1 国内輸送
 - 4-2 国際間輸送
5. 事例紹介
 - 5-1 国内輸送
 - 5-2 国際間輸送
6. まとめ



目次

1. 会社紹介

2. 平パレットの生産・レンタル平パレットの保有統計

3. 近年、生じている現場の課題

4. 2024年問題を契機とした変化

4-1 国内輸送

4-2 国際間輸送

5. 事例紹介

5-1 国内輸送

5-2 国際間輸送

6. まとめ



日本パレットレンタル株式会社

- ✓ 設立:1971年(物流近代化を目的に設立)
- ✓ 原点:物流現場で働く人々を重労働から解放する
- ✓ コンセプト:標準化と共同化
- ✓ 保有枚数:約1,200万枚(標準規格:T11型)
- ✓ 国内拠点:東京(本社)、札幌、仙台、埼玉、名古屋、大阪、広島、福岡、
:静岡(特約店)
- ✓ 国内デポ:全国約60カ所
- ✓ 海外拠点:タイ(子会社)
- ✓ :中国、台湾、韓国、シンガポール(代理店・特約店)
- ✓ 海外デポ:タイ、中国、台湾、韓国、シンガポール、マレーシア、
ベトナム、アメリカ(計13カ所)

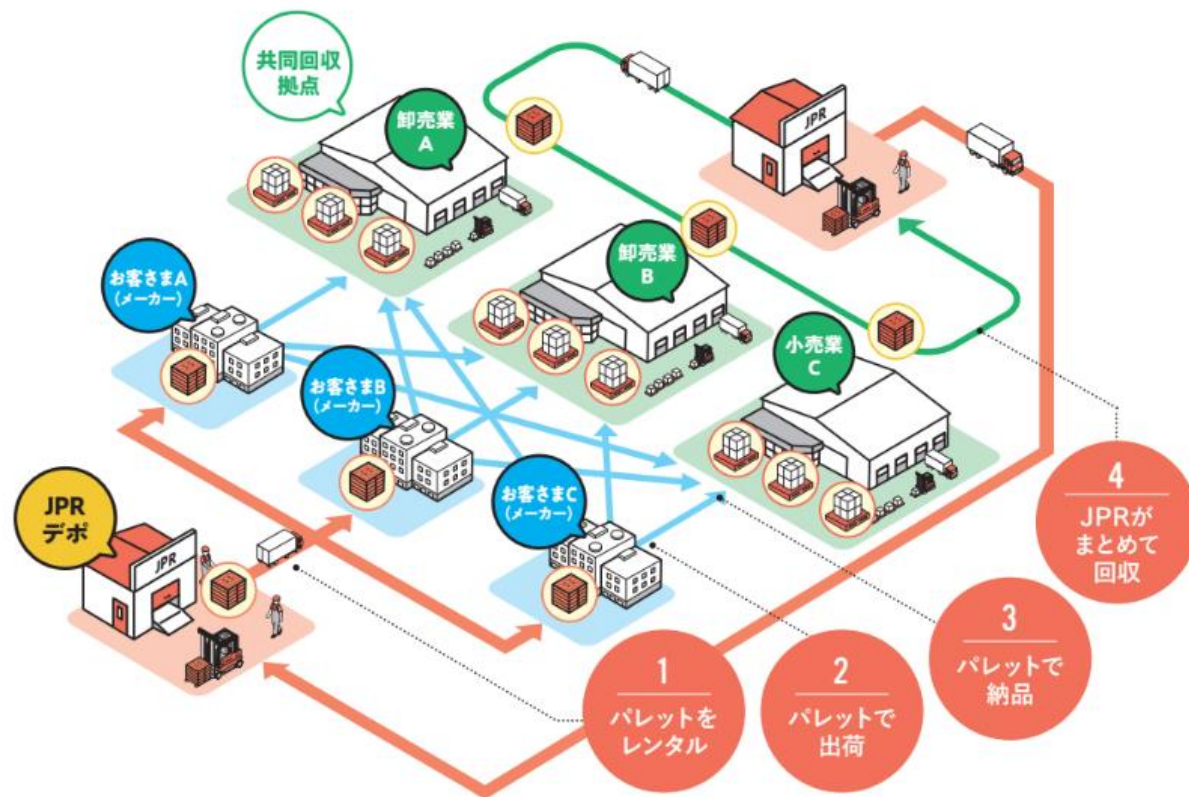




会社紹介

コンセプト:標準化と共同化 ~共同回収システム~

- ✓ 「標準パレットをレンタル方式で共同化する」というアイデアのもと、パレットの循環を「共同回収」という形でサービス提供しています。
- ✓ これによりレンタルパレットを利用されるお客様は、パレットの出荷先から個々にパレットを回収する必要がなくなります。
- ✓ 2026年1月現在、JPRは全国約3,100カ所の卸売業・小売業の物流センターから、利用後のパレットを共同回収しています。





海外ネットワーク:国際間のパレットプールシステム

- ✓ 国際間の一貫パレチゼーションも広がりを見せています。
- ✓ 国際間のパレット規格は、数種類ありますが、日系企業間においては11型による国際間の一貫パレチゼーションが導入されるケースが増えてきました。
- ✓ 具体的な導入事例は日用品、機械部品、食品包装材、食品原料などです。サプライチェーンの川上から川下に向けての多企業間の利用もあれば、同一企業グループ内での利用もあります。



地図データ:Made with Natural Earth.



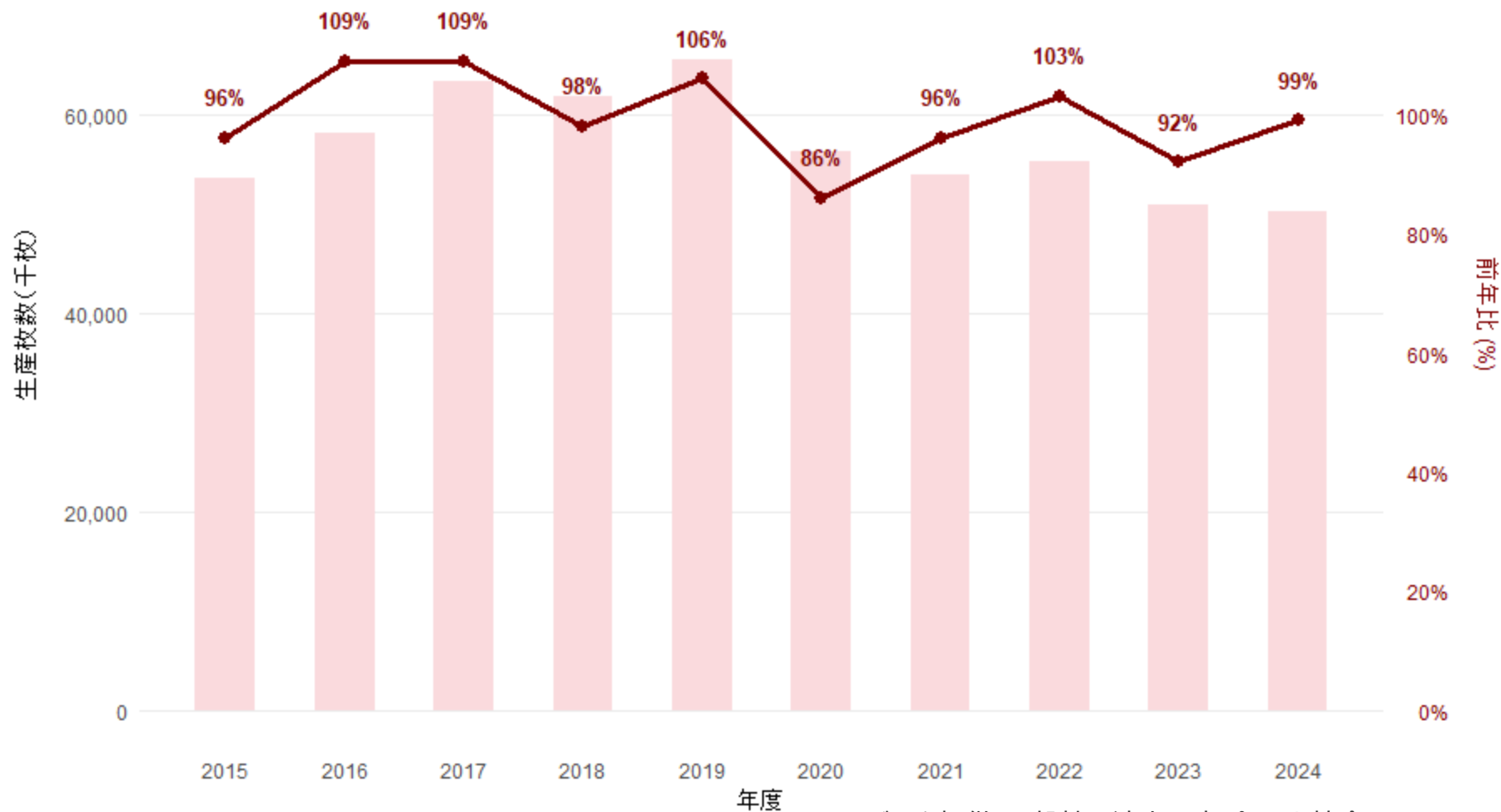
目次

1. 会社紹介
2. 平パレットの生産・レンタル平パレットの保有統計
3. 近年、生じている現場の課題
4. 2024年問題を契機とした変化
 - 4-1 国内輸送
 - 4-2 国際間輸送
5. 事例紹介
 - 5-1 国内輸送
 - 5-2 国際間輸送
6. まとめ



平パレットの生産・レンタル平パレットの保有統計

平パレットの生産統計(木製・プラスチック製に限る)

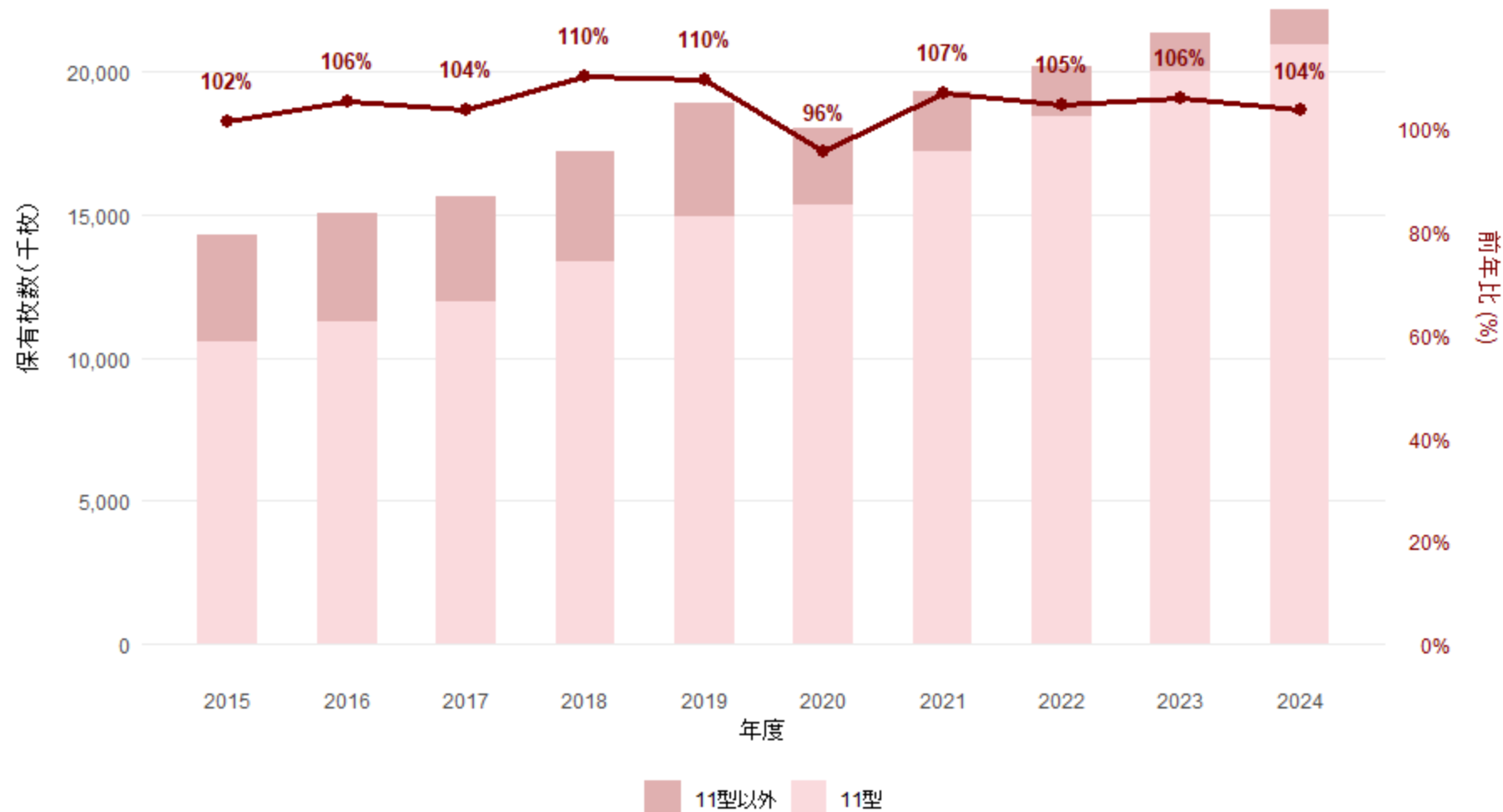


データ提供:一般社団法人日本パレット協会



平パレットの生産・レンタル平パレットの保有統計

レンタル平パレットの保有統計(木製・プラスチック製に限る)



データ提供:一般社団法人日本パレット協会



目次

1. 会社紹介
2. 平パレットの生産・レンタル平パレットの保有統計
3. 近年、生じている現場の課題
4. 2024年問題を契機とした変化
 - 4-1 国内輸送
 - 4-2 国際間輸送
5. 事例紹介
 - 5-1 国内輸送
 - 5-2 国際間輸送
6. まとめ



⚠ 国内輸送における現場の課題（パレット化が国際間輸送よりも進むなかで）

- ✓ 安定的な輸送手段の確保：繁忙期や長距離輸送時であっても安定した輸送手段を確保したい。
- ✓ 上昇する物流コストの抑制：コスト上昇は受け入れつつも、その上昇カーブを抑制したい。

⚠ 国際間輸送における現場の課題

- ✓ 荷役作業の人員不足：バラ輸送のバンニング・デバンニングを担う人員がいない。
- ✓ ワンウェイパレットの廃棄：ワンウェイパレットの廃棄にコストがかかり、環境負荷も生じている。



⚠ 国内輸送における現場の課題（パレット化が国際間輸送よりも進むなかで）

- ✓ 安定的な輸送手段の確保：繁忙期や長距離輸送時であっても安定した輸送手段を確保したい。
- ✓ 上昇する物流コストの抑制：コスト上昇は受け入れつつも、その上昇カーブを抑制したい。



- ✓ 安定的な輸送手段の確保：輸送量の平準化、納品先とのリードタイムの調整。
- ✓ 上昇する物流コストの抑制：多企業間での連携と共同化により一社単独でのコスト上昇率の抑制。



近年、生じている現場の課題

⚠ 国際間輸送における現場の課題

- ✓ 荷役作業の人員不足: バラ輸送のバンニング・デバンニングを担う人員がない。
- ✓ ワンウェイパレットの廃棄: ワンウェイパレットの廃棄にコストがかかり、環境負荷も生じている。



- ✓ 荷役作業の人員不足: パレット輸送へ切替えることで荷役作業を機械化。
- ✓ ワンウェイパレットの廃棄: レンタルパレットの導入によって廃棄にかかる問題を解消。



目次

1. 会社紹介
2. 平パレットの生産・レンタル平パレットの保有統計
3. 近年、生じている現場の課題
4. 2024年問題を契機とした変化
 - 4-1 国内輸送
 - 4-2 国際間輸送
5. 事例紹介
 - 5-1 国内輸送
 - 5-2 国際間輸送
6. まとめ

企業間の連携と共同化

- ✓ 個社単独での課題解決から、他企業との連携・共同化による解決へ
- ✓ 同業種だけでなく異業種との取り組みが増加
- ✓ 自社のアセットシェアというよりは、利用するリソースのシェアが加速





2024年問題を契機とし変化(国内輸送)

TranOpt AIによる共同輸送マッチング&コンサルティング

短距離から中長距離、モーダルシフト等、続々と共同輸送が成立(事例一部)。

- 混載便  埼玉⇒群馬(家電・鉄鋼製品)
- 帰り便  千葉⇒新潟(住設機器・家電)
- 帰り便  栃木⇒大阪(繊維製品)
- 帰り便  三重⇒福岡(加工食品)
- 帰り便  佐賀⇒大阪(物流容器)
- 混載便  東京⇒沖縄(家具・家電)
- 帰り便  埼玉⇒千葉(新聞・鉄鋼製品)
- 混載便  千葉⇒新潟(家電・家具)
- 帰り便  埼玉⇒大阪(金属製品・家電)
- 帰り便  兵庫⇒神奈川(電子機器・家電)
- 帰り便  福岡⇒埼玉(日用品)
- 混載便  埼玉⇒沖縄(家具・家電)



【事例】<https://lp.tranopt.jpr.jp/archive-interview.php>



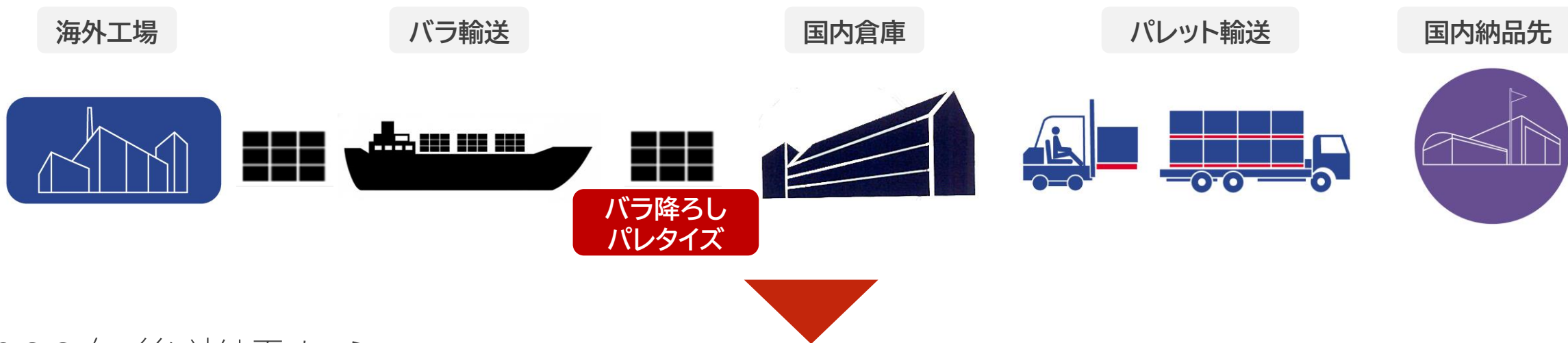
目次

1. 会社紹介
2. 平パレットの生産・レンタル平パレットの保有統計
3. 近年、生じている現場の課題
4. 2024年問題を契機とした変化
 - 4-1 国内輸送
 - 4-2 国際間輸送
5. 事例紹介
 - 5-1 国内輸送
 - 5-2 国際間輸送
6. まとめ

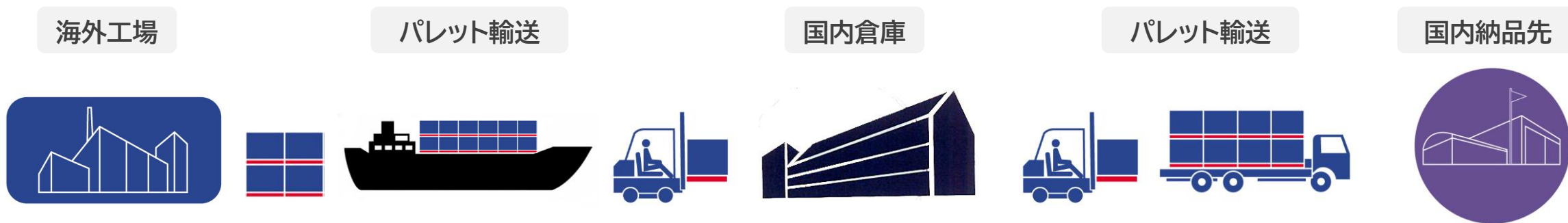


2024年問題を契機とした変化(日本が輸入)

以前は(今も)

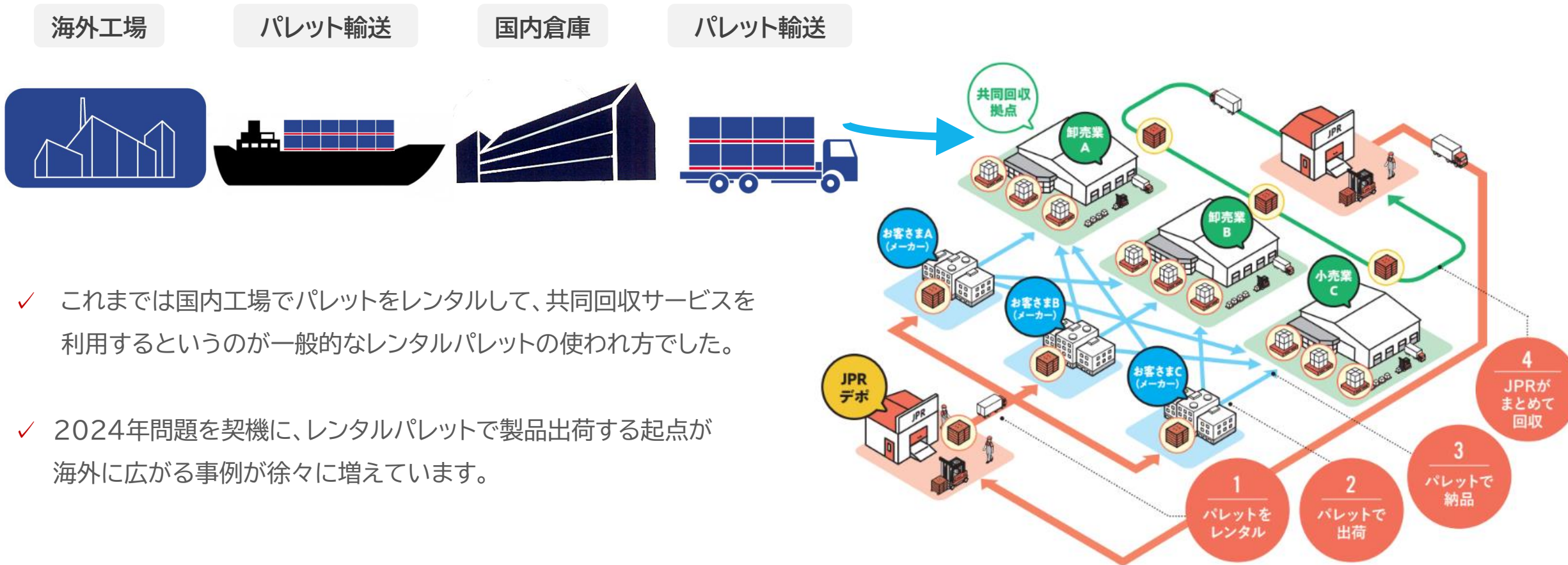


2023年後半頃から





2024年問題を契機とした変化(日本が輸入)

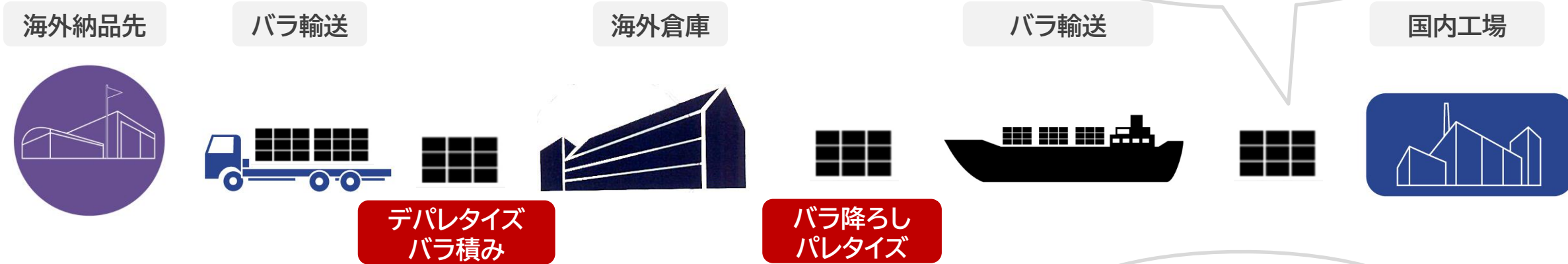


- ✓ これまでは国内工場でパレットをレンタルして、共同回収サービスを利用するというのが一般的なレンタルパレットの使われ方でした。
- ✓ 2024年問題を契機に、レンタルパレットで製品出荷する起点が海外に広がる事例が徐々に増えています。



2024年問題を契機とした変化(日本が輸出)

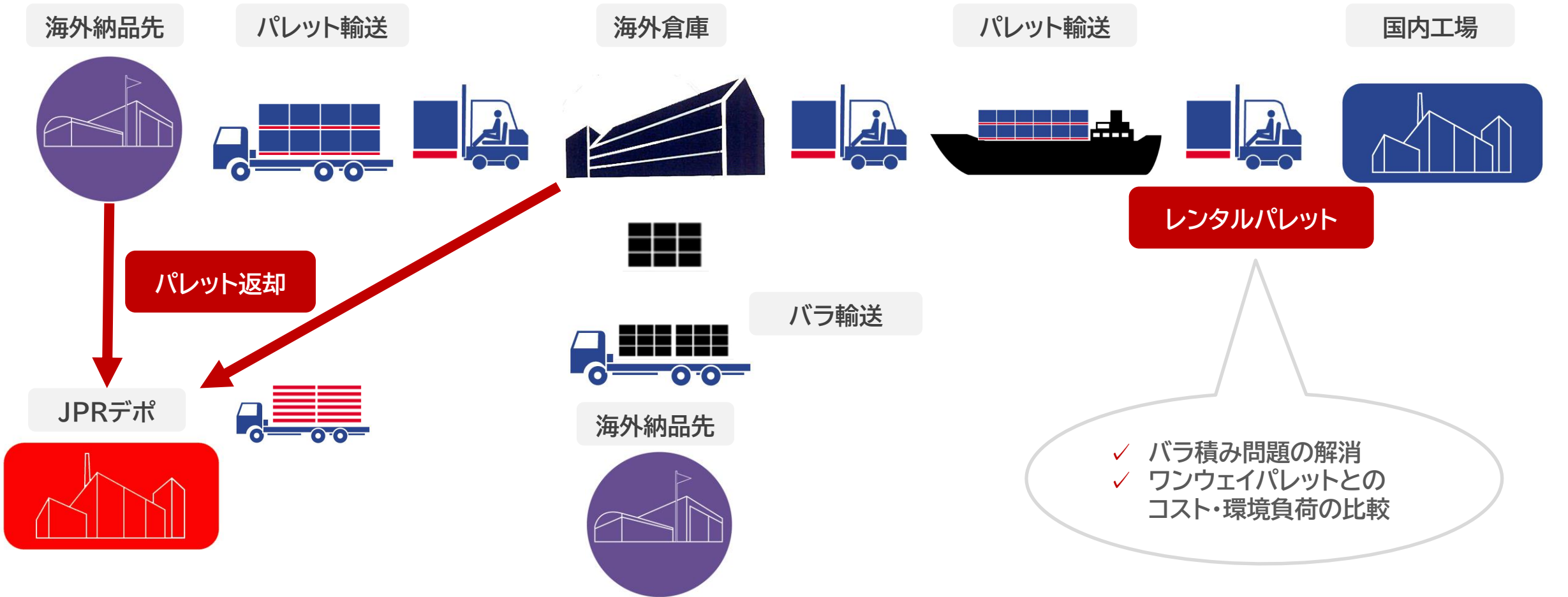
以前は(今も)





2024年問題を契機とした変化(日本が輸出)

2023年後半頃から





目次

1. 会社紹介
2. 平パレットの生産・レンタル平パレットの保有統計
3. 近年、生じている現場の課題
4. 2024年問題を契機とした変化
 - 4-1 国内輸送
 - 4-2 国際間輸送
5. 事例紹介
 - 5-1 国内輸送
 - 5-2 国際間輸送
6. まとめ



事例紹介 国内輸送

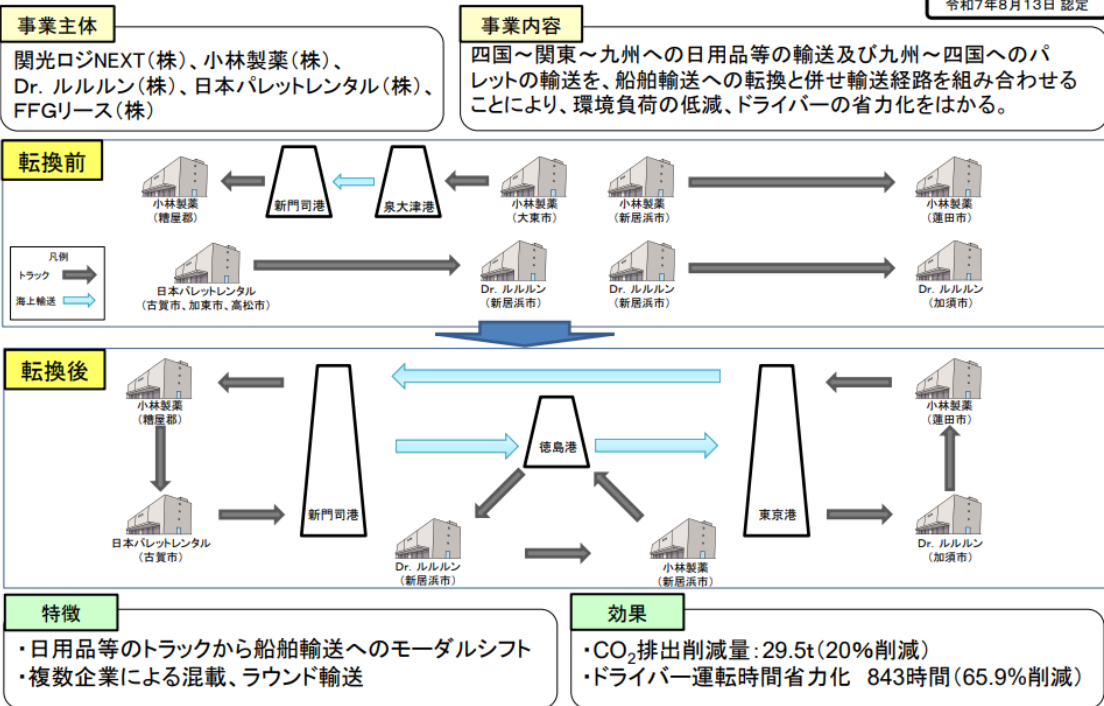
小林製薬(株)様、Dr.ルルルン(株)様、関光ロジNEXT(株)様との取り組み(2025年12月から)

- ✓ 国土交通省の総合効率化計画として認定を受けた、異業種3社のモーダルシフト・共同輸送
- ✓ 四国～関東～九州の日用品の輸送および九州～四国へのパレットの輸送を組み合わせ

609.日用品等の船舶モーダルシフト



令和7年8月13日 認定



■ 九州・四国・関東間で、業界を超えた共同輸送を開始
共同輸送を実施するのは、九州と四国、関東を繋ぐ海上輸送ルートです。

ルート(海上輸送区間)	荷主企業(積載商品)
九州～四国(新門司港～徳島港)	JPR(レンタルパレット)
四国～関東(徳島港～東京港)	小林製薬(日用雑貨)、Dr.ルルルン(フェイスマスク)混載
関東～九州(東京港～新門司港)	小林製薬(日用雑貨)

関光ロジ NEXT が全行程の輸送を行い、海上輸送はオーシャントランス株式会社の北九州⇄徳島⇄東京航路を利用。

出典: 弊社プレスリリース「国土交通省の総合効率化計画に認定、異業種 3 社のモーダルシフト・共同輸送を開始」

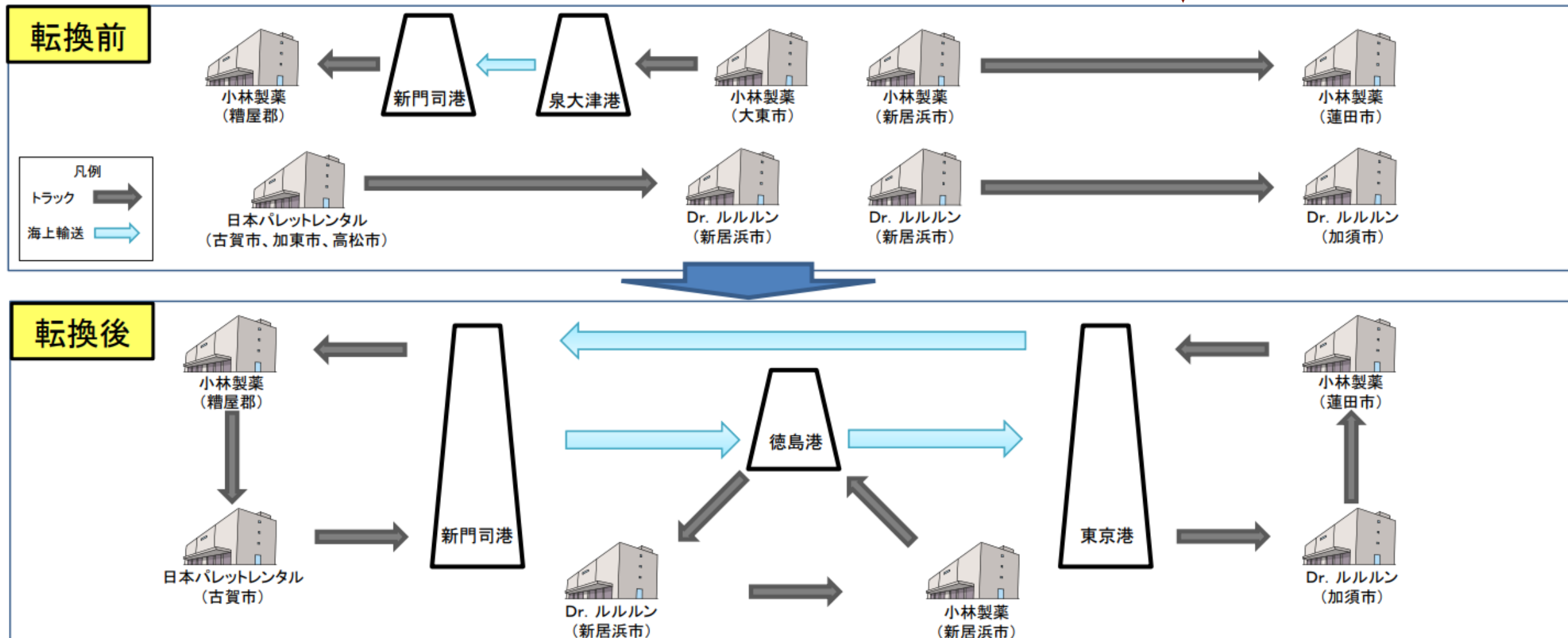
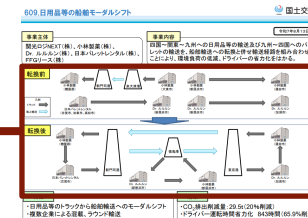
https://www.jpr.co.jp/news/user_assets/20260126_Release_01.pdf

出典: 国土交通省「物流効率化法の認定状況」 <https://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/freight/content/001976167.pdf>



事例紹介 国内輸送

小林製薬(株)様、Dr.ルルルン(株)様、関光ロジNEXT(株)様との取り組み(2025年12月から)



出典:国土交通省「物流効率化法の認定状況」 <https://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/freight/content/001976167.pdf>



事例紹介 国内輸送

小林製薬(株)様、Dr.ルルルン(株)様、関光ロジNEXT(株)様との取り組み(2025年12月から)

■高い積載率と14mトレーラーの有効活用

小林製薬、Dr.ルルルンの四国発関東向けの輸送は、出荷ロットが20tトレーラー単位に纏まらな
いと、積載効率が上がりず輸送コストの面からも、海上輸送ができず陸送輸送を行わざるを得ない
という課題がありました。

そこで、今回の取り組みでは、従来各社で手配していた陸送輸送分の輸送を14mセミトレーラーに
変更し混載する事で、コストを抑えつつ海上輸送へシフトすることに成功しています。

■輸送ルートマッチングにより、実車率99.4%を実現、CO2排出量は20%低減、ドライバーの労働省力化65.9%

この取り組みでは、3社の輸送をマッチングし、物流拠点を効果的に回することで、99.4%の高い実
車率を実現できます。また船舶へのモーダルシフトや輸送の効率化により個社単位での輸送と比較
し、年間でCO2排出量が約29.5t(20%)低減します。併せて、長距離の陸送を海上へシフトする
ことで、ドライバーの年間の稼働時間が約843時間(65.9%)削減できると想定され、労働環境の
改善効果も期待できます。

出典：弊社プレスリリース「国土交通省の総合効率化計画に認定、異業種3社のモーダルシフト・共同輸送を開始」https://www.jpr.co.jp/news/user_assets/20260126_Release_01.pdf



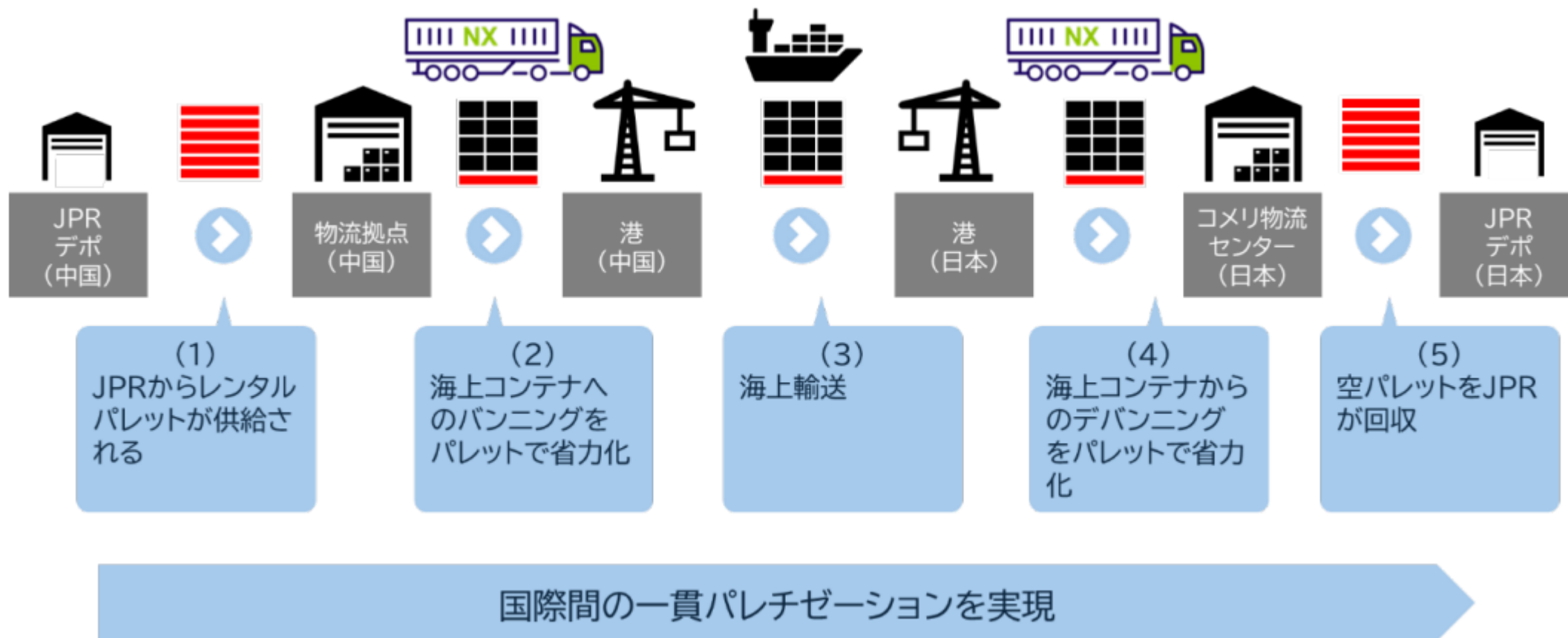
目次

1. 会社紹介
2. 平パレットの生産・レンタル平パレットの保有統計
3. 近年、生じている現場の課題
4. 2024年問題を契機とした変化
 - 4-1 国内輸送
 - 4-2 国際間輸送
5. 事例紹介
 - 5-1 国内輸送
 - 5-2 国際間輸送
6. まとめ



事例紹介 国際間輸送

(株)コメリ様、日本通運(株)様との取り組み(2025年10月から)



出典:弊社プレスリリース 国際輸送での一貫パレチゼーションを開始 現場作業の時間・負担を削減、および木製パレット廃棄の削減を実現

https://www.jpr.co.jp/news/release/20251218_000323.html



事例紹介 国際間輸送

(株)コメリ様、日本通運(株)様との取り組み(2025年10月から)

時期(輸送形態)	説明	課題
1999年: カートン(バラ)輸送	コメリ様が、自社開発商品の中国から日本への輸入業務を日本通運様に委託。当初は海上コンテナの積載効率、輸送コストを考慮し、パレットを使用せず、カートン(バラ)での輸送でスタート。	コンテナへのバンニング、デバンニング(積み・荷下ろし)作業にかかる時間が長い。肉体的負担も大きい。
2024年: 木製のワンウェイパレットによる輸送	物流2024年問題に備える取組みが求められるようになったことを受けて、2024年5月より、輸送荷姿カートン(バラ)から木製パレットを利用した輸送に変更し物流現場の負荷を軽減。	木製のワンウェイパレットの購入費が高額。輸送が一方向であるため使用後のパレットの廃棄が発生。コスト、環境負荷の両面で問題。
2025年: プラスチック製レンタルパレットによる輸送	JPRのプラスチック製レンタルパレットによるテスト輸送を2025年9月に実施、10月より本運用を開始。木製ワンウェイパレットの課題を克服して安定的なパレット輸送が可能となった。	

出典:弊社プレスリリース 国際輸送での一貫パレチゼーションを開始 現場作業の時間・負担を削減、および木製パレット廃棄の削減を実現

https://www.jpr.co.jp/news/release/20251218_000323.html



事例紹介 国際間輸送

(株)コメリ様、日本通運(株)様との取り組み(2025年10月から)

導入効果

項目

効果

コンテナデバンニング時の作業時間

- 40FT バラ積みコンテナと比較して 1 本当たり約 2 時間の短縮
- 1年間の作業時間約 1,016 時間の短縮

木製パレット廃棄

- 年間約 20,000 枚以上の廃棄削減
- 年間約 170 トンの CO2 削減

出典:弊社プレスリリース 国際輸送での一貫パレチゼーションを開始 現場作業の時間・負担を削減、および木製パレット廃棄の削減を実現

https://www.jpr.co.jp/news/release/20251218_000323.html



目次

1. 会社紹介
2. 平パレットの生産・レンタル平パレットの保有統計
3. 近年、生じている現場の課題
4. 2024年問題を契機とした変化
 - 4-1 国内輸送
 - 4-2 国際間輸送
5. 事例紹介
 - 5-1 国内輸送
 - 5-2 国際間輸送
6. まとめ



本日本お伝えしたいこと

- 2024年問題を契機に、異業種間での物流リソースの連携・共同化といった取り組みが加速しており、レンタルパレットを用いた一貫パレチゼーションの需要も増えています。
- 一貫パレチゼーションの実現には、パレットの標準化と共同化が必要です。レンタル方式は空いているパレットを利用者が共同利用する仕組みであり、フィジカルインターネットの世界観との親和性が高い手段です。
- 「製品の輸送」と「レンタルパレットの輸送」をモーダルシフト・共同輸送化した事例があります。またレンタルパレットの導入によって、バラ荷役の解消、ワンウェイパレット運用からのコスト削減といった具体的な成果が出ている事例があります。



JPR 日本パレットレンタル株式会社

